

ものの燃え方と空気 (全11時間)

知識・理解と関心・意欲

植物体が燃えるときには空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができる

育てたい見方や考え方

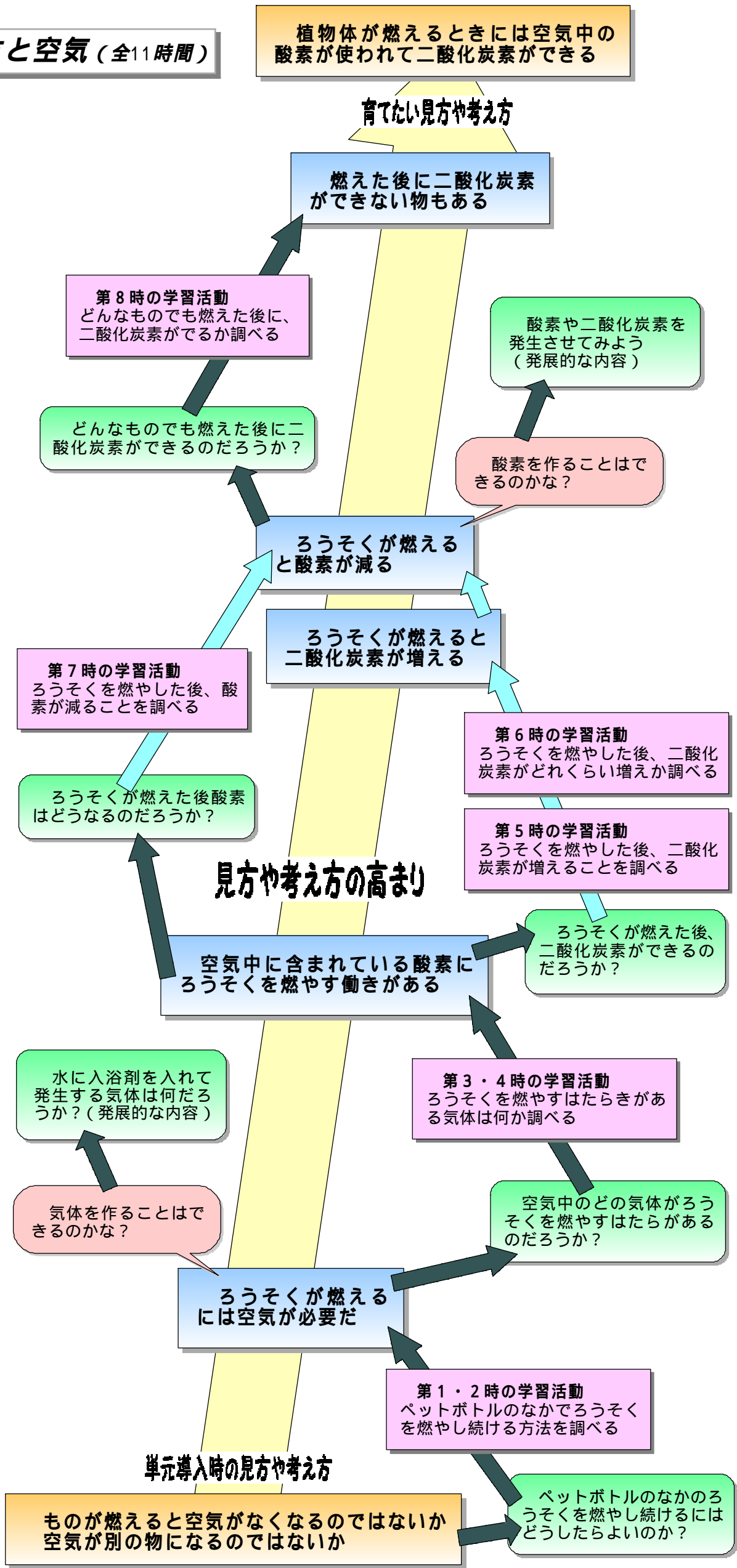
観察実験の技能表現

・ものの燃焼のしくみを適用し、身の回りのものを選んで調べることができる(第8時)

・ものが燃えると酸素が減って、二酸化炭素が増えることが分かる(第5~7時)

・空気の組成は窒素80%、酸素20%などであることが分かる(第3時)

・ものの燃えるしくみに興味を持ち、進んで調べることができる(第1時)



・石灰水の白濁やろうそくの燃焼時間、気体検知管などを適切に使って、自分が考えた気体を同定する実験を構想することができる

・酸素の検知管を適切に使って酸素の濃度を調べることができる(第7時)

・二酸化炭素の検知管を適切に使って二酸化炭素の濃度を調べることができる(第6時)

・石灰水を使って二酸化炭素の検出ができる(第5時)

・ろうそくの燃焼時間から酸素の有無を見分けることができる(第4時)

・水上置換を使って気体を集めることができる(第3時)